

(別紙 8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0170401095		
法人名	サテラホーム 有限会社		
事業所名	グループホーム サテラホーム		
所在地	札幌市西区発寒11条4丁目5番1号 (電話) 011-667-8787		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年5月19日	評価確定日	平成21年5月27日

【情報提供票より】 (平成21年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 5月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤0人, 常勤換算14人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 16,500円 暖房費(11月-3月)6,000円	
敷金	(有) (45,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	1日当たり	1,400 円		

(4) 利用者の概要 (5月 1日現在)

利用者人数	16 名	男性	5 名	女性	11 名
要介護 1	4 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	琴似ロイヤル病院・静明館診療所・平川歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「サテラホーム」は、JR発寒中央駅から徒歩10分ほどの住宅街にある2ユニットのグループホームである。運営者は、一人ひとりのお年寄りが落ち着いて暮らすことができるようにとの思いを込め、「みんなが集まる家」の意味の「サテラホーム」を平成16年に設立、自身も介護職員として勤務している。近隣には発寒神社や発寒小学校、西消防署、商店街があり、利用者は居間の窓から隣家の満開の桜が風にそよぐ様子を眺めながら寛いで生活している。管理者は、看護師として精神科に勤務してきた経験を活かし、利用者の健康状態に配慮しながら穏やかに生活していくことができるよう、家族や地域の協力を得て職員と共に日々のケアに取り組んでいる。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型サービスとしての理念は、開設5周年を迎えたことを契機に検討しているところである。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	管理者は、職員に自己評価、外部評価の意義を説明し、各項目を管理者、主任、介護職員と分担して作成している。管理者は、外部評価を実施することで日常のケアの課題を整理することができると考えている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月毎に第三木曜日に事業所で開催しており、複数の家族や利用者、町内会の役員、地域包括支援センターの職員などが参加している。議題については、事前に町内会に知らせているので、地域で行っている転倒予防の講習会や災害時の連絡網の配布などの具体的な助言を受けている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 1階正面玄関に苦情対応マニュアルを図式化して掲示しており、意見箱を設置している。家族の不安や疑問、希望を引き出すことができるよう、来訪時は家族等の意見の把握に努めている。「サテラ便り」を毎月発行し、利用者の心身の状況に変化が生じた場合は、葉書きで様子を報告している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 高齢者や一人暮らしの世帯が多いが、町内会活動の活発な地域であり、利用者各自が地域の一員として町内会に加入している。「サテラ便り」を回覧板に入れて貰うなどの協力を得ており、町内会主催のバスツアーに参加したり、地域のセンターで開催している手芸教室や敬老会などに出かけている。町内会のパトロール隊の訪問や事業所主催の敬老会、餅つきなどを通して地元の人々と交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成15年の設立時に運営者、管理者、職員が話し合い「ゆったりと自由にありのままに」という事業所独自の理念をつくりあげている。	○	開設5周年を迎えたことを契機に地域密着型サービスとしての理念を検討しているということなので、その実現を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、各々のユニットの廊下に額に入れて掲示している。管理者、職員は理念を認知症の介護の共通の価値観として捉え、日々その実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	高齢者や一人暮らしの世帯が多いが、町内会活動の活発な地域であり、利用者各自が地域の一員として町内会に加入している。「サテラ便り」を回覧板に入れて貰うなどの協力があり、町内会主催のバスツアーに参加したり、地域のセンターで開催している手芸教室や敬老会などに出かけている。町内会のパトロール隊の訪問や事業所主催の敬老会、餅つきなどを通して地元の人々と交流している。	○	地域とのつきあいを更に深めるために事業所主催のフリーマーケットを検討中とのことなので、その実現を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員に自己評価、外部評価の意義を説明し、各項目を管理者、主任、介護職員と分担して作成している。管理者は、外部評価を実施することで職員の気持ちを把握する機会となったと捉えている。また、日常のケアの課題を整理することができると考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に第三木曜日に事業所で開催しており、複数の家族や利用者、町内会の役員、地域包括支援センターの職員などが参加している。議題については、事前に町内会に知らせているので地域で行っている転倒予防の講習会や災害時の連絡網の配布などの具体的な助言を受けている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	西区のグループホーム協議会の会長が市町村との仲介役を担っているため、事業所での判断が難しい場合は、助言を得ている。介護報酬の改定や生活保護受給者の事務手続きなど不明な点は市町村に相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、「サテラ便り」と金銭出納、領収書、請求書を郵送している。便りは、2ユニット合同で行事の内容を報告し、個別には誕生日を記載している。利用者の心身の状況に変化が生じた場合は、葉書きで様子を報告しており、職員の異動等は家族等の来訪時に話をしている。	○	今後は、職員の異動や退職などによる職員の交代がある時は、「サテラ便り」で報告していきたいと考えているので、その実現を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階正面玄関に苦情対応マニュアルを図式化して掲示しており、意見箱を設置している。家族の不安や疑問、希望を引き出すことができるよう、来訪時は家族等の意見の把握に努めている。それらの意見の内容については、日誌などに記録している。	○	家族等の意見が運営に反映されるよう、職員がそれらの意見を記録し、情報を共有することができるよう、期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年は、管理者、介護職員の交代が続いた時期があり利用者の動揺もあったが、現在は、2ユニット間では異動を行わず、職員を固定し馴染みのある職員がケアを行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、研修の必要性を認識しており、管理者や職員の実務経験に応じて研修計画を作成している。外部研修は勤務扱いとし、1名の職員が年に3～4回、認知症の介護などについて受講している。内部研修として週1回、訪問看護の看護師によるミニ勉強会を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と合同で望来に花見に出かけたり、5周年記念行事には利用者と職員を招待している。また、老人保健施設や特別養護老人ホームとの交流もあり、指導を仰いでいる。	○	今後も、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みの実現を期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の心身の状況を観察するために、おやつの時間帯や主任の勤務日に本人、家族が2～3回見学できるようにしている。入院中は、管理者が面会に行き、2回目の面会は主任や副主任が同行している。事前に収集している個人情報は、職員が閲覧することができるようにし、入居後は自由に過ごしてもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの利用者の生活歴を把握することで本人の好きなこと、できることなどを見極め、環境を整えている。掃除をし易いように箒と塵取りを壁に掛けたり、冬はそりを使ってゴミだしをするなど支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者に合わせた声のトーンや話しかけを行い、希望や意向を把握するように努めている。思いを汲み取っていきたいが集団生活なので難しいこともある。遠慮したり多弁になるなど、いつもとは違う様子がある時は、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時の介護計画は、本人や家族の意向を聞き、生活歴や医療情報を参考にして10日間程経過してから、計画作成担当者が中心となり暫定的な介護計画を作成している。介護計画は家族に郵送し、来訪時に説明を行い署名捺印を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っている。体重増加など、利用者の身体状況変化に応じて現状に即した介護計画を作成している。介護計画の見直しは、医療情報や日誌を基に毎月の職員会議で意見交換を行い、現状の優先する課題を絞り、計画を作成している。利用者の状況に応じて、理解しやすい言葉で介護計画を説明をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を取っている。家族の状況に応じて職員が入退院の手続きをしたり、かかりつけ医の送迎を行っている。利用者の個別の買い物や外食、喫茶店などの外出にも柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医は、本人や家族の意向により継続は可能であるが、入院設備がない場合は、利用者の状況により相談して変更する事もある。皮膚科や慢性疾患、定期的な検査が必要な利用者は、かかりつけ医の継続受診を行い、事業所も医師と連携を深めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する対応について事業所で方針を決め、利用開始時に説明を行い確認書に署名捺印を得ている。看取りは、医療行為が伴わない範囲で、他の利用者の精神面を考慮して行う方針であり、昨年も看取りを行った実績がある。	○	重度化に関する書類が、利用開始時期により書式が統一されていないので、今後書類の見直しを行い書式を統一する意向なので、その取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格を傷つけるような言葉使いをしないように配慮しているが、職員は常識的な言葉使いをしているので、特別に指導を行う事はない。個人記録は事務所で保管し、記録する時は、利用者に見えないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やラジオ体操など、一日の決められたスケジュールはあるが、利用者は、テレビを見たり、散歩や日光浴を行うなどそれぞれの希望に沿って過ごせるように支援している。ドライブやケーキを食べに行くなど、その日の要望に出来る限り対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者が届けているが、生鮮食品などの買い物に利用者と一緒に出かける事もある。野菜を切ったり、下膳、食器拭きなど利用者の状況に応じて手伝って貰っている。ケーキバイキングをしたり、外食に出かけるなど楽しく食事出来るように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、一人週2回以上を目標に、利用者の希望に応じた入浴時間でゆっくり入浴出来るように配慮している。利用者の希望や職員の力量に応じて、夜間入浴も行っている。入浴剤などを利用して、入浴が楽しめるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除係、郵便係、雪かきなど利用者に応じて役割を持って生活出来るように工夫している。買い物や散歩、カラオケなどで利用者が好きな事を楽しみ、張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	○	利用者の写真とネームプレートを作成して、それぞれの役割を表示し、意欲的に生活できるようにしていきたい意向なので、その取り組みを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季の天気の良い日は、利用者の歩行状態に応じてコースを選択して毎日散歩に出かけたり、玄関前での日光浴を行っている。ドライブなども日常的に行っている。冬季は、買い物やファーストフード店に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の出入りは、玄関扉に鈴を付けて音で確認すると共に、玄関横の事務所で把握する事により日中は施錠を行っていない。利用者が外出した時は、声かけをして職員も一緒に出かける事で安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年は6月と8月の2回、消防署の協力を得て、利用者、家族、地域住民が参加して初期消火訓練や避難訓練を行っている。災害時の連絡網を作成し、消防署と町内会役員にも配布して協力体制を整えており、ユニットの玄関に避難袋を用意して災害に備えている。	○	今後は、夜間を想定した避難訓練の実施を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、食材業者の栄養士が作成している。利用者の好みに応じて献立を変更したり、一度に食べられない利用者には数回に分けて食べて貰うなど、必要量が摂取出来るように配慮している。食事や水分摂取量は全員記録し、申し送り時にも報告している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の床や扉は、木目の落ち着いた色で、台所や居間に飾られている季節の花や装飾も家庭的で、それぞれの利用者が自宅に居るように落ち着いて居心地良く過ごせるような工夫がなされている。対面式の台所からは居間を見渡す事ができ、利用者は、食事の準備をする様子や匂いを感じることができるなど生活感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口には、写真とネームプレート、好みの暖簾がかけられ個性的な入口になっている。居室には、収納棚やストーブ、温度計と湿度計が備え付けられ、箆箆や椅子、ベッドなど好みの家具や、人形、花が飾られ利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。